

平成23年度 科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
24149 国立大学法人等施設の整備（文部科学省）

- 1 日時：平成22年9月22日 13:00～13:30
- 2 場所：中央合同庁舎4号館2階 共用特別第3会議室
- 3 聴取者：総合科学技術会議有識者議員 相澤議員、本庶議員
内閣府 梶田審議官、岩瀬審議官、有松参事官
- 4 説明者：文教施設部計画課 山下課長

5 施策概要

国立大学法人等が、創造性豊かな人材養成や独創的・先端的な学術研究、高度先端医療等を推進するための基盤となる施設を整備する。

6 質疑応答模様

（相澤議員）まず、次期5カ年計画。これの現在の状況、特に文部科学省だけでなく、関係するところにおける。基本計画の策定は最終的には文科省として出すわけであるが、位置付けに対する理解がどこまで浸透しているのか。それと、年末が最終の計画の決定か。どういうレベルか。確認したい。

（文部科学省）まずスケジュールについて先に説明する。調査研究協力者会議、年末までに最終方向をだす。来年1月～3月に文科省内で第3次5カ年計画を作る。関係するところとの調整は、調査研究協力者会議はオープンになっている。意見を集めて、概ね理解は得られていると思っている。

（相澤議員）来年度概算は、次期計画の初年度である。今説明のあった概算要求は、この基本計画との関係で、少なくとも文科省内での位置づけは。

（文部科学省）おっしゃるとおり一年目。第2次まとめの6つの戦略カテゴリーにあわせて要求している。整合性はしっかりとれていると理解している。

（相澤議員）予算枠の方は？

（文部科学省）今年の政府与党の方針において、前年度額よりまず一割下げて、その一割分については要望枠が要求できる。さらに深掘りすれば深掘りした分の3倍を要求できる。国大施設整備は1割減った分を要望枠に回して、耐震化を要求して、前年度同額を確保したというのが、最大限の努力の結果。

（相澤議員）5ページの6つの戦略カテゴリー。3つのS。全般での位置付けは依然として耐震化・老朽化にウェイトを置いて、その充足率を問題にしている。ここから次に移るステップに飛躍がある。このこと自体が今までも問題。つまり、老朽化・耐震化への対応を建前として、3Sは今までのものとオーバーラップしているが、そういうことを実質的には実現という戦略。今後の計画は、まさしくそれをまたやるという風にしか見えないが、ここはどうか。

（文部科学省）前5カ年は耐震化。耐震化して中身は変えないというものもあった。今後は

教育の機能を上げていくという戦略。安全もやるが、エコ、環境配慮、教育研究機能を上げる。3つあわせてやっていく。これまでの安全重視の整備とは異なる。

(相澤議員) 異なると言われるとまた問題。初めの方、第2章のところ、進捗状況として数値目標がでている。これが大義名分だった。今年もそれを大義名分としてやらざるを得ないだろうという理解をしようとしている。ここは具体的な数値目標がある。3Sもそれに対応して、具体的に目標を掲げられて進むのか、依然として老朽化など具体的な数値を根拠に、そこで大枠予算を確保しつつ、実質的にそういうところを含めながらやっていくのか。そこを一步出て明確にできないのか。

(文部科学省) ご指摘のように、2ページから3ページに掲げていることはハード上の機能の問題。狭隘・老朽は施設上の問題として。どの方向に向かってやるかについては、先ほど説明した6つのカテゴリーでやっていく。具体的な数値目標はこれから検討していなければならない。5ページ下に、成果目標・指標がある。アウトプットとしてどういうものが掲げられるか。いくつか教育研究上の効果として表現できるものがないか、たとえば、若手研究者のスペースの確保やCO2削減など。整備目標以外にも指標を打ち出せないか現在検討中。

(相澤議員) 極めて曖昧になってしまう。5ページ下では。何を、どの規模で、いつまでに達成するのか、これでは何も見えない。どれくらいの予算が必要かが見えない。これを指標としてどうなるかが描けなければ、サポートしにくい。それを訊いている。

(文部科学省) 2ページのような具体的な目標を掲げるべきだということかと思うが、それについても当然検討していきたいと思っている。今後、CSTPとも相談させて頂きたい。これについては関係するところもあるので、ご検討させて頂ければ。

(相澤議員) これがないと。来年度の予算も良いか悪いかの議論ができないということ、相当深刻に受け取ってもらわないと困る。

(文部科学省) わかりました。有り難うございます。

(本席議員) これまでの一般的な方針、老朽化や耐震化から重点的施設整備の方針。ここに3つ挙がっている。安全性、高度化、多様化、附属病院。これが抽象的。相澤先生が言われたので、繰り返しにならないようにすると、例えば、大学附属病院再生。大学病院全部やるのか？

(文部科学省) どの大学病院も最先端医療をやっている。それぞれの計画を全部把握している。少しずつ進めているという状況。計画を順繰りに進めている。財政投融资なのでやりやすい。以前からずっと同様にやっている。

(本席議員) そこに大きな問題あるというのは分かっていると思うが、財投だから建ちやすい。各大学が借入金を背負っている。財務省が運営費交付金の削減。去年で終わったが。一貫して借入金の利子を含めた返済という問題が残っている。そちらの専門としては施設が建てば良い。それで良いのか？ずっと各大学要求している。財投なのでどんどんやっていく。本当にそれで良いのか？

(文部科学省) その点は我々も共有している。施設整備計画。償還計画も高等局が見ている。健全に返せるかどうかも重視して計画を立てている。流れとして良いのは、最近作った建

物は改修できる。前はほとんど改築しないと使い物にならなかったのも、お金がかかった。効率的に整備が進んでいる。借金も大分少なくなっている。

(本席議員) そういう視点も含めて、長期プランニングをして欲しい。中・長期的な対応方策。国大法人全部を国際的に卓越した教育研究拠点としてトップレベルに並べるのか。重点化という以上、メリハリをつけないと財政的にもたない。施設整備だけでやることではないけれども、施設整備はある程度考慮して長期計画をたてて欲しい。

(文部科学省) 仰るとおり。高等教育局とも連携してやっている。そういう方向でやっていきたい。

(本席議員) 細かいこと。セーフティのところ、安全・安心と書いてあるが、第4期では安心を外したいと思っている。安全だけで十分。

(文部科学省) 承知した。

(相澤議員) 科学技術基本計画の方には既に書き込んだが、国大法人だけでなく、という記載は、どこに具体的に反映するのか。

(文部科学省) この答申自体は、国大法人中心なので明記していない。文科省私学担当と連携しながら、それぞれが予算確保に向けていきたいと考えている。

(相澤議員) タイトルの「国立大学法人等」には、そこまでは入っていないのか。

(文部科学省) タイトルの「等」は、大学共同利用機関、高専を想定して書いている。私学とも連携しながらしっかりやっていきたい。

(相澤議員) 今日はすっきりした表現をとれない立場なのか、理解に苦しむ表現であるが、科学技術基本計画に書き入れるということについては、文科省も了解していると思うが、施設・設備では国大法人等になるのか。運営でなんとかするというのは逃げのような気がするが。

(文部科学省) 私学は建学の精神という考え方がある。国が私学の計画を作るというのは、役割に照らして趣旨に添わない。私大の整備も大事というのは認識している。私学担当とも連携しながらしっかり対応したい。

(相澤議員) しっかり対応をどこに明示するのか。

(文部科学省) 高等局私学部ともそういった意見があったとのことで検討してもらおう。またご報告させていただく。

(梶田審議官) 私学の方が施設整備費色々あわせると100億ぐらい。国大関係はなんとか捻り出して500億ぐらい。施設の延べ床面積で比較した場合、国立と私立でどれくらい差があるのか。補修費への施設維持費というのが、どれくらいの面積で、どういう割合で文科省から配分されているのか。直感的に、私学だと施設・建物は減価償却引当金など会計上手当をしている。国大法人の場合は国大法人法。一部企業会計が入っているとはいえ、施設整備は引当金なしの国の補助金依存で、国の補助金がなければ施設整備は進まない。当面は、なんとか予算確保しつつ施設更新せざるを得ないが、長期的な課題としては、もし大学法人制度を変えられるときがあれば、会計制度の改善によって、施設整備費の積み立てができるような手当をすとか、私立の良いところを取り入れて組み合わせていかないと、なかなか貴重な日本の資産である国立大学施設整備も維持しづらいのではと思ったので、

どれくらいの配分になっているか、参考までに教えて頂ければ。

(文部科学省) 今、私学の延べ床面積のデータを持ち合わせていない。後ほど報告させていただきます。

(相澤議員) 来年度の予算要求と次期計画がぴったりとあっていないと説得力にならない。先ほど5ページ、後の方の具体的なところを明確にして、その初年度々して23年度要求だという、その筋書きをしっかりと。こういう方向に行くというだけでも良いので、この段階で明示してもらわないと、我々の判断もなかなか難しい。

以上